



『名古屋セントラル病院』ニュース 早春

救急外来診療体制強化のお知らせ

当院では、救急医療体制の充実と向上を図るため、令和2年1月より時間外・休日救急診療の体制を下表の通り強化しました。

■ 体制を強化する時間帯（＝コアタイム）

平日：17時～22時

土日祝：11時30分～20時

医師に加え救急担当看護師もコアタイムは2名体制から3名体制へ増員しました

【変更前】



【変更後】



従来、救急当直医1名と初期研修医による副直医1名の合計2名の医師で、すべての救急受診患者の診療に当たっていましたが、変更後は、コアタイムに救急指導医1名を増員、専門領域の重複を避けて人員を拡充し、合計3名体制とすることで繁忙時間帯の救急診療体制を強化しました。また、同時時間帯の看護師も増員し各連携医療機関の夕診の時間帯や休日日中の救急受診、緊急検査、入院等の受け入れを円滑に行うことが可能となりましたので、必要の際はお気軽にご用命ください。微力ではありますが先生方の日常診療の一助となり地域医療に貢献できるよう努めてまいります。

地域の医療・介護従事者向け勉強会を開催しました

令和元年12月14日（土）に当院と中村区はち丸在宅支援センター（名古屋市医師会）の主催で、医療・介護従事者向けの勉強会を開催しました。この勉強会は主に退院支援に関わる地域の在宅支援機関・事業所との連携・ネットワークの深度化を図ることや病院のPRを目的に毎年開催しております。今回は「糖尿病」に焦点を当て、特別講師として「糖尿病・内分泌内科 名駅東クリニック」の山本祐歌先生をお招きし、最新の糖尿病関連情報をもとに高齢糖尿病患者への治療方法等について解説を頂きました。その中で、「健康な人と変わらない日常生活の質（QOL）の維持、寿命の確保」が糖尿病治療の目標で、それを目指して診療している、という姿勢が非常に印象的でした。

この勉強会を通しあらためて、糖尿病治療は病院だけ、医師だけで対応できる疾患ではなく、地域そして多職種で連携して患者さんを支えていくことが大切だと感じました。今後も積極的に地域の医療・介護関係者の方々と連携を図ってまいります。



第99回 病診連携勉強会

目の充血

眼科 副医長 恒川 明季



令和元年10月8日（火）、病診連携システム登録医の先生方をお招きして勉強会を開催いたしました。勉強会の内容をまとめましたので、以下にご紹介いたします。

目の充血には結膜充血と毛様充血の2種類がある。結膜充血は眼瞼の裏から球結膜まで全体に鮮紅色で角膜輪部から離れるほど充血が強くなり、眼脂を伴うことが多いのに対して、毛様充血は角膜輪部中心の血管の拡張で輪部から離れるほど充血は弱くなる。毛様充血は角膜やぶどう膜の強い炎症や緑内障発作の時に出現することが多く、より重篤な疾患が隠れていることが多いので注意が必要である。

結膜充血の鑑別疾患として細菌性およびウイルス性結膜炎、アレルギー性結膜炎、ドライアイ、感染性角膜炎、角膜異物、強膜炎、ぶどう膜炎、眼内炎、閉塞隅角緑内障発作、眼窩疾患などがあげられる。

まず充血をみた際に鑑別しなくてはならないのは感染症か否かという点である。眼脂や流涙、疼痛の訴え、眼瞼の腫脹や発赤、熱感に感染を疑う所見である。

流行性角結膜炎はアデノウイルス8型19型37型を原因として8-14日の潜伏期間の後、眼脂、結膜充血、流涙を伴い急性に発症する。耳前リンパ節腫脹を伴うことが多く、重症化すると偽膜形成や角膜上皮下混濁を伴い視力低下することもある。感染経路は接触感染だが、感染力が非常に強いいため、入院患者に発症した際には院内感染を起こしやすく注意が必要である。

ヘルペスウイルスは様々な眼合併症を来す。単純ヘルペスウイルスは小児の初感染で特徴的な角膜炎を起こすが、帯状疱疹ウイルスは高齢者において、結膜炎以外にもぶどう膜や網膜にも炎症を起こし、さまざまな眼所見を呈するのが特徴である。帯状疱疹ウイルスに伴う眼疾患を総称して眼部帯状疱疹とよぶ。片側の前額部、上下眼瞼に強い水疱を伴った有痛性の皮疹を伴う。鼻尖部に皮疹を認めると眼合併症の頻度が高い（Hutchinson徴候）。

アレルギー性結膜炎は掻痒感を伴う結膜充血と結膜浮腫を認め、結膜乳頭など増殖性変化を伴うと春季カタルと呼ばれる。治療としてはメディエーター遊離抑制作用を持つリザベン[®]、インター[®]、ヒスタミンH1受容体拮抗薬であるリボスチン[®]、更に両者の作用を併せ持つザジテン[®]、パタノール[®]などの抗アレルギー点眼薬を基本とし、効果不十分な場合にはステロイド点眼薬を併用する。

急性閉塞隅角緑内障発作でも結膜充血、毛様充血を来す。毛様体で産生された房水は線維柱帯を経てシュレム管から排泄され眼外の血管に流れて循環し一定の眼圧を維持している。隅角が閉塞して房水の流出が滞ると急激に眼圧が上がり急性閉塞隅角緑内障発作を起こす。眼痛、頭痛、吐き気、視力低下を主症状とし、初診時は内科や脳外科を受診することもあり注意が必要である。レーザーで周辺虹彩に穴を開けることにより治療する。

その他、頻度は低いが内頸動脈海綿静脈洞瘻や眼窩蜂窩織炎などの眼窩疾患でも結膜充血を来すことがあるので必要に応じて眼窩CTなどの画像検索を考慮すべきである。

充血を来す疾患

1. 結膜疾患：細菌性結膜炎、ウイルス性結膜炎、アレルギー性結膜炎
2. 角膜疾患：ドライアイ、感染性角膜炎、異物
3. 強膜炎
4. ぶどう膜疾患：虹彩毛様体炎
5. 眼内炎
6. 閉塞隅角緑内障発作
7. 眼窩疾患：眼窩蜂窩織炎、甲状腺癌など

流行性角結膜炎

【原因】
アデノウイルス8型19型37型
【症状】
8-14日の潜伏期間の後、眼脂、結膜充血、流涙を伴い急性に発症
初め片目で1週間以内に両眼に移行することが多い
耳前リンパ節腫脹を伴うことが多い
重症化すると偽膜形成や角膜上皮下混濁を伴い視力低下することもある
【感染経路】
接触感染
感染力が非常に強い
【治療】
抗生剤点眼＋低濃度ステロイド点眼

第100回 病診連携勉強会

睡眠障害に対する当科の取組み

やまもと ひろし
耳鼻いんこう科 科長 山本 浩志



令和元年12月17日（火）、病診連携システム登録医の先生方をお招きして勉強会を開催いたしました。勉強会の内容をまとめましたので、以下にご紹介いたします。

現代人の生活スタイルは目まぐるしく変化する社会情勢の中でたくさんの情報を得ようとするあまり、睡眠時間を削ってしまう傾向にあります。中でも日本人は2016年の統計で平均時間が最も短い国となりました。寝る間も惜しんで働く勤勉な人柄を示していると言えば響きはいいですが、一方で睡眠時間を削ることで起こるヒューマンエラーは、時に大きな事故につながることはみなさんご存知のことと思います。実際、睡眠の問題でもたらされる社会的損失は、欠勤、遅刻、早退などを含めると年間3兆円以上と試算されています。JR東海としても、このような問題が発生することは乗客の大切な時間と命を預かる企業として由々しき事態であります。これらのことを踏まえて2006年から当科にて睡眠外来が開設されました。上気道を観察することを得意とする耳鼻咽喉科と全病棟個室である当院の特長を生かし現在まで睡眠検査を行っています。主な睡眠障害は、国際分類（ICSD3）による以下の7つに分けられます。

- ①不眠症
- ②睡眠関連呼吸症候群
- ③中枢性過眠症
- ④概日リズム障害
- ⑤睡眠随伴症候群
- ⑥睡眠関連運動障害
- ⑦その他の睡眠障害

当科でもこれら睡眠障害の検査（簡易PSG、フルPSG）治療（CPAP、口腔内装置、手術、投薬）に対応すべく日々研鑽を積んでいます。

当院では、日本睡眠学会専門医と認定技師による睡眠検査・診断・治療を行っていますが、年々検査数は増加し本年年度で2000件を超えるフルPSG検査（検査日：月・火・水・金、2件/日）を行うまでとなりました。またこの度、日本睡眠学会専門医療機関（B型）の認定を受けることが出来ました。今後も近隣施設の先生方に安心して患者さんを紹介して頂ける専門機関としてさらに努力してまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

名古屋セントラル病院での活動

【full PSG検査】

2019年6月～

検査日増枠2件/日・4日間/週 月・火・水・金



日本睡眠学会専門医療機関に認定

○日本睡眠学会専門医療機関の病院とは？？

- ・睡眠障害又は睡眠呼吸障害の医療を総合的かつ専門的に行うと日本睡眠学会が認定した医療機関です。
- ・2019年7月1日現在、日本で105医療機関が認定を受けています。

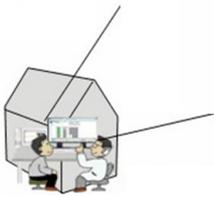
当院は、日本睡眠学会専門医による睡眠ポリグラフ検査（PSG検査）を実施するなど、学会が定める諸条件を兼ね備えている睡眠呼吸障害の医療を行う病院として認められました。



インターネットから簡単に 当院の診療予約が取れるようになりました！

前号にてお知らせいたしました通り、当院では地域の医療機関の先生方がより便利に当院の診療予約を取れるよう、新しいインターネット予約システム **C@RNA Connect (カルナコネクト)** を導入いたしました。当院にお電話でご予約頂く際に、電話が繋がらない・確認事項が手間などご不便をおかけしていることもあるかと思いますが、このシステムをご利用頂ければ **土日を含めた365日24時間いつでも診療科のご予約が可能**です。予約作業の負担軽減に繋がり、患者さんにも即座に予約日時をお伝えすることができます。

診療科の予約
予約状況の照会



インターネットで予約がとれる診療科

【内科系】	【外科系】
■呼吸器内科	■消化器外科
■循環器内科	■乳腺・内分泌外科
■消化器内科	■整形外科
■血液内科	■脳神経外科
■糖尿病・内分泌内科	■皮膚科
■腎臓内科	■泌尿器科
■脳神経内科	■眼科
	■耳鼻いんこう科

導入を希望される医療機関様はお気軽にお問合せください。

【お問合せ先】 地域・法人連携室 山根、竹内 TEL：052-452-3196

Event

第102回病診連携勉強会開催

日時：令和2年4月21日（火）14：00～15：00

会場：名古屋セントラル病院2階 多目的ホール

講師：循環器内科 医師 泉本 真孝

テーマ：下肢閉塞性硬化症の治療について カリキュラムコード：74（高血圧症）

■病院理念

- 1 安全で質が高く、快適でまごころのこもった患者本位の医療
- 2 健全な病院経営による地域社会への貢献
- 3 協力、責任感、積極性にあふれた活力ある病院づくり

■ビジョン

- 1 地域の中核病院として、常に先進的で専門的、良質で効率的な急性期医療を提供する
- 2 医学的根拠に基づく医療を確実に実践し、部門や職種を超えた安心で信頼感のあるチーム医療を提供する
- 3 充実した救急医療と予防医療を提供する
- 4 地域の医療機関と綿密に連携し、受診される皆さまに最適な医療環境を提供する
- 5 各々が医の倫理を徹底し、日々研鑽するとともに医療人の育成に努め、信頼され選ばれる病院をつくる

編集：名古屋セントラル病院 地域・法人連携室

〒453-0801 名古屋市中村区太閤三丁目7番7号 TEL:052-452-3165（代表） FAX:052-452-3182

E-mail:hospital@jr-central.co.jp URL:https://nagoya-central-hospital.com